

■ 農作物の生育状況と今後の対策等（5月）

令和8年5月13日
青森県三八農林水産事務所
農業普及振興室

I 土地利用型作物

1 水稲

(1) 生育の状況

は種最盛期は平年より1日遅い4月18日であった。強風のためハウスの開閉ができずハウス内が高温となり、苗の生育不良や徒長がみられる。

田植え作業の平年は、始めが5月16日、最盛期は5月22日となっている。

(2) 今後の対策・指導等

田植えは、可能な限り天気の良い温暖な日を選び、適期に行う。

田植え後は、適期に除草剤を散布する。

気温に合った水管理を行う。

2 小麦

(1) 生育の状況

5月11日の調査では、草丈は52.9cmで平年より4.1cm短く、 m^2 当たり茎数は407本で、平年より145本少なかった。

表1 小麦生育調査結果（5月11日） 調査地点：八戸市市川

年次	播種日	草丈(cm)	茎数(本/ m^2)	出穂期
本年	10月7日	52.9	407	5月 日
平年	9月29日	57.0	552	5月18日
前年	10月9日	61.2	521	5月17日

※平年は、H26～R7産の平均値

品種：ネバリゴシ

(2) 今後の対策・指導等

開花始め～開花期と、その1週間後の2回赤かび病防除を行う。

II 野菜

1 ながいも

(1) 生育の状況

春掘り作業は、概ね終了している。

トレンチャー耕、土壌消毒等作業が順次進められている。

(2) 今後の対策・指導等

植え溝に土壌水分が十分ある時に植え付ける。

2 ねぎ

(1) 生育の状況

7月上旬出荷の作型では4月下旬以降に不織布が除去されており、その後の生育はおおむね順調である。

(2) 今後の対策・指導等

病害虫の適期防除を行う。

定植作業は、畝の崩れ防止と活着促進のため土壌水分のある時に行う。

ほ場の乾燥が強い場合は、かん水するか葉面散布剤を活用する。

3 にんにく

(1) 生育の状況

草丈は、旧倉石を除き平年を上回っている。

生葉数・茎径は、平年と比べ五戸・新郷では上回っており、旧倉石・田子では並から下回っている。

病害虫は、五戸・新郷の観測ほで春腐病、さび病の発生がみられている。

(2) 今後の対策・指導等

病害虫防除は、降雨前の薬剤散布を徹底し、下葉にも十分かかるように丁寧に散布する。

葉先枯れ症状や葉色が淡いほ場では、葉面散布剤を活用し生育の回復を図る。

土壌が乾燥する場合には、5月下旬頃までにかん水を実施する。

とう立ち後は、球の肥大を促すため、早めにとうを摘み取る。

種子ほ場を中心に、ウイルス株の抜き取りまたは株元へのマーキングを実施する。

表2 にんにく生育調査結果（5月11日）

場所	年次	品種系統	植付日	マルチ	りん片分化期	草丈(cm)	生葉数(枚)	茎径(mm)
五戸 (桜沢)	本年	白玉王	10月7日	グリーン	4月13日	87.0	9.0	22.7
	平年比		8日遅い		1日早い	118%	102%	111%
	*平年		9月29日		4月14日	73.9	8.8	20.4
	*前年	白玉王	10月6日	グリーン	4月18日	76.2	7.8	21.2
旧倉石 (倉石中市)	本年	在来種	10月7日	グリーン	4月12日	70.5	7.7	16.5
	平年比		6日遅い		3日早い	93%	92%	87%
	平年		10月1日		4月15日	75.6	8.4	18.9
	前年	在来種	10月2日	グリーン	4月21日	67.4	7.5	20.3
新郷 (扇ノ沢)	本年	在来種	10月4日	グリーン無穴	4月13日	80.0	8.5	20.3
	平年比		1日遅い		4日早い	117%	105%	107%
	平年		10月3日		4月17日	68.3	8.1	18.9
	前年	在来種	10月3日	グリーン無穴	4月21日	66.2	7.8	20.4
田子 (日ノ沢)	本年	白玉王	10月5日	黒	4月12日	75.5	8.0	18.4
	平年比		2日早い		4日早い	106%	96%	98%
	平年		9月30日		4月16日	71.4	8.3	18.7
	前年	白玉王	9月28日	グリーン	4月21日	67.3	7.6	19.2

五戸はR7、旧倉石はR8から調査地点変更

五戸:H28年～R7年までの過去10年間の平均値(参考値)

旧倉石:H28年～R7年までの過去10年間の平均値

新郷:H28年～R7年までの過去10年間の平均値

田子:H28年～R7年までの過去10年間の平均値(黒マルチのR2を除く)

※茎径は、R3年～R7年までの過去5年間の平均値

表3 にんにく病害虫等調査結果（5月11日：100株調査）

場所	春腐病	さび病	欠株	二本立ち
五戸	1%	7%	0%	0%
旧倉石	0%	0%	0%	1%
新郷	5%	2%	0%	1%
田子	0%	0%	0%	0%

4 いちご

(1) 生育の状況

「とちおとめ」は草高 38.8cm と平年をやや下回り、チップバーンが見られるものの、生育はおおむね順調である。病虫害はうどんこ病が少発生となっている。調査しているハウスでは、現在、開花～収穫中である。

「よつぼし」は草高 31.8 cm と平年を下回っているものの、生育はおおむね順調である。病虫害はオンシツコナジラミとアザミウマ類が少発生となっている。調査しているハウスでは、現在、開花～収穫中である。

表 4 いちご生育調査結果（5月11日） 調査地点：八戸市市川

品種名	年度	定植	草高 (cm)	葉柄長 (cm)	小葉長 (cm)	小葉幅 (cm)
とちおとめ	本年 (平年比)	9月3日 (10日遅い)	38.8 (96%)	29.8 (101%)	10.6 (92%)	7.5 (86%)
	平年	8月24日	40.4	29.6	11.5	8.7
	前年	8月25日	36.8	24.6	12.3	9.0
よつぼし	本年 (平年比)	9月25日 (10日遅い)	31.8 (89%)	24.2 (91%)	8.9 (83%)	6.7 (84%)
	平年	9月15日	35.6	26.6	10.6	8.0
	前年	9月19日	31.9	23.2	11.0	7.8

注) 平年 「とちおとめ」：令和4年～令和6年（植付年）の3か年平均
但し、定植日は平成28年～令和6年の9か年平均
「よつぼし」：令和4年～令和6年（植付年）の3か年平均
但し、定植日は令和元年～令和6年の6か年平均

(2) 今後の対策・指導等

適正な温度管理を実施する。

オンシツコナジラミやハダニ類、アザミウマ類、うどんこ病の防除を徹底する。

育苗ほにおける炭疽病の防除を徹底する。

Ⅲ 土壌くん蒸剤「クロールピクリン」の使用について

クロールピクリンの使用に際しては、使用者自身と近隣住民の健康のために、以下の注意事項の遵守を徹底する。

- ・土壌くん蒸剤用防護マスクなどの保護具を身につける。
- ・ガスが近隣の住宅や家畜舎、田畑、井戸、河川に流れ込まないように、風向きに注意する。
- ・周辺住民に事前に使用日時と使用者等の連絡先を、時間的余裕をもって幅広く周知する。
- ・被覆しないと有効成分のガスが抜け、防除効果が落ちる。また、近隣住民や環境に悪影響を与える恐れもあることから、必ず厚さ 0.03mm 以上のシートや難透過性資材で必ず被覆する。

Ⅳ 農作業安全について

農業機械の操作を行う際は、周囲の安全確認や、ヘルメット着用などの事故予防対策に留意すること。また、思わぬトラブルが発生した場合には、まずエンジンを停止させること。